

H30課題への対応

課 題	対応状況
<p>1. 多数の鉱山遺産が世界遺産一覧表に記載されている中で、それらと明確に区別される佐渡鉱山の顕著な普遍的価値について分かりやすく説明すること。特に、日本における鉱山遺産である石見銀山との明確な違いを説明すること。</p>	<p>○比較分析で明らかになった点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・佐渡島の金山の対象時期である16世紀～19世紀は、世界的に科学技術や機械装置が発展する時期であり、伝統的手工業により活発な生産を続けていたのは、アジア地域に限られ、かつそこに所在する大規模な鉱山で現在も遺跡として状態よく残り、当時のシステムを伝えているものは石見銀山と佐渡に限られることが分かった。 ・佐渡島の金山は、伝統的手工業による鉱山技術を追求し、独自の進化を遂げ生み出された究極の金生産システムを示す鉱山として、他に類を見ない価値を有することが明らかになった。 <p>○石見銀山との比較</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石見銀山は伝統的手工業の観点において技術開発の黎明期、佐渡はその後の発展期と位置づけられるが、規模や開発時期の長さ、国による継続的な管理・運営の点で石見銀山とは異なる。 ・佐渡島の金山は伝統的手工業による技術の究極の形と説明し、石見銀山にはない評価基準ivで技術的な価値を強調した。
<p>2. 佐渡における近世の鉱山技術と労働力編成の在り方に適合した集落とが示す価値について、研究成果に基づく物証との関係を踏まえて分かりやすく説明すること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・集落構造が生産体制を伝えていると評価し、管理体制や専門分化された生産組織などの生産体制が、具体的にどのような集落構造から分かるかを紹介し、その発展過程が読み取れることを説明した。 <p>⇒価値基準iii</p>
<p>3. 佐渡鉱山における機械化が江戸時代の手工業の伝統に基づき当該地域に適用したものであったことについて、より具体的な説明をすること。また、機械化後における技術や鉱山社会について、主張する価値との関係を物証に即して説明すること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・佐渡島の金山の各鉱山で鉱床特性に応じた鉱山技術が開発されたと評価し、具体的に各鉱床特性に対しどのような技術が開発されたかを説明した。⇒価値基準iv ・価値を伝統的手工業による生産システムに限定したため、機械化後（近代）の鉱山遺構は対象から外した。
<p>4. 西三川砂金山や鶴子銀山の、シリアル・ノミネーションとしての位置付けを、主張する価値との関係に基づいてより分かりやすく説明すること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・西三川砂金山は、世界的に見て、古代ローマ時代と19世紀のゴールド・ラッシュ期の間を埋める重要な砂金山遺跡であると共に、本推薦資産の主張する鉱床の特性に適合した生産技術の内、砂金鉱床に対する「大流し」という独特な技術を理解する上で不可欠なものであることを説明した。 ・鶴子銀山は、相川金銀山の開発を導く重要な存在で、その価値は相川金銀山と一体であると考え、両者をつなぐ古道を含め、相川鶴子金銀山という一資産として扱うこととした。
<p>5. 歴史又は価値の説明を裏付ける研究成果、及び生産技術や労働力編成と物証あるいは絵巻等の史料との関係性について、推薦書本体若しくは付属資料において確実に提示すること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第2章「資産の説明」の写真・図表の大幅な改訂を行い、価値の基礎となる研究成果や史料を盛り込んだ。